

07シーズン 日本海ダクト初オープン

2007年 2月22日 JG0TEV 中村

2月22日のダクト発生域 (推定)



南から暖かい空気が流れ込んで気温が上昇。
夜になって高気圧が遠ざかり、西から近づく気圧の谷の影響でダクト発生は無いと予想。日本付近は広い範囲で湿潤域、上昇流域、正渦度領域の中。日中は上昇したと予想される高度も夜には低下傾向になっているはずでしたが夜になってから深夜に至るまでダクト発生によるオープンが確認されました。2007年シーズン。日本海ダクト初オープン情報です。北陸から東北の日本海上で、今シーズンの初オープンが確認されました。

- 20:01 JJ0ADO (新潟県佐渡市) -J07IZC(秋田県にかほ市) RS59-59
*J07IZC QRP 2W出力
- 20:05 JJ0ADO (新潟県佐渡市) -J07IZD(秋田県にかほ市) RS59-59
*J07IZD QRP 2W出力
- 22:12 JH0INE (新潟県新潟市) -J07IZC秋田県にかほ市) RS57-59(ノブリ)
- 22:40 JH0INE (新潟県新潟市) -J07IZC秋田県にかほ市) RS51-55(ノブリ)
*JH0INE QRP 5W出力、J07IZC QRP 600mW出力
(J07IZC, J07IZD 須藤さん情報)

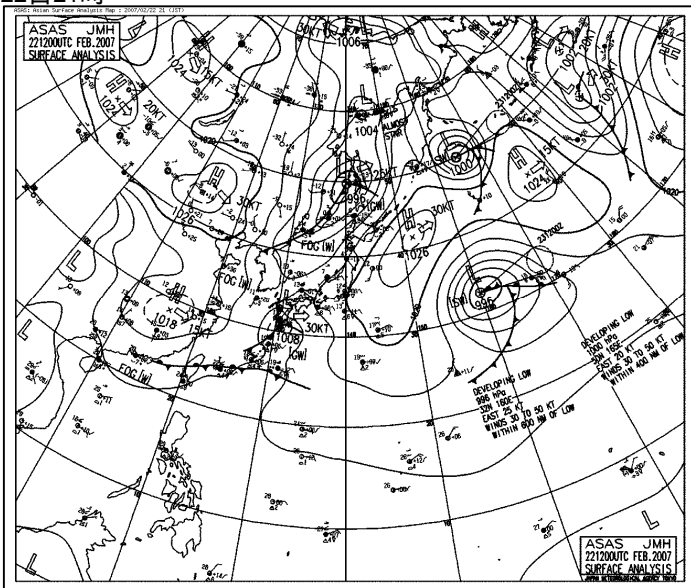
深夜・・・

秋田市から佐渡レピータRS59フルスケール受信。(JM7BWU佐々木さん情報)

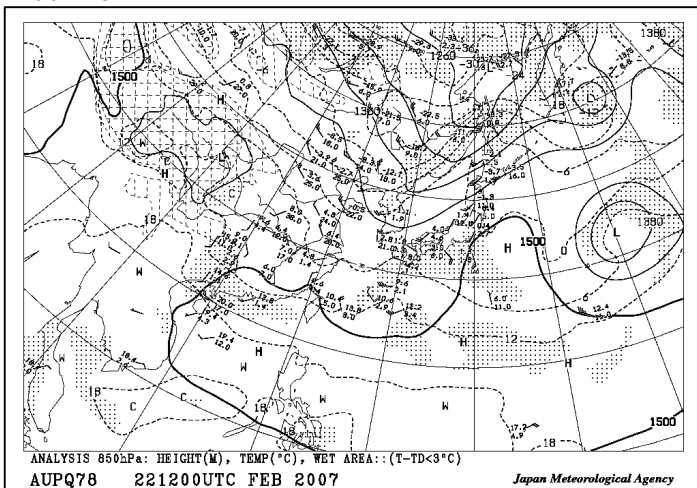
気象解析

地上天気図から 寒気を伴った高気圧が日本の東海上へと遠ざかり、日本海は深い気圧の谷の中に入ってきました。850hpa面解析図をみると、東北地方には0度の等温線が見られますが、全般的に寒気が遠ざかったあとの暖気移流の場となって気温が上昇傾向にあったことが読み取れます。秋田、輪島の湿数は10°以上で乾燥空気の流れ込みが確認できます。

地上天気図 22日21時



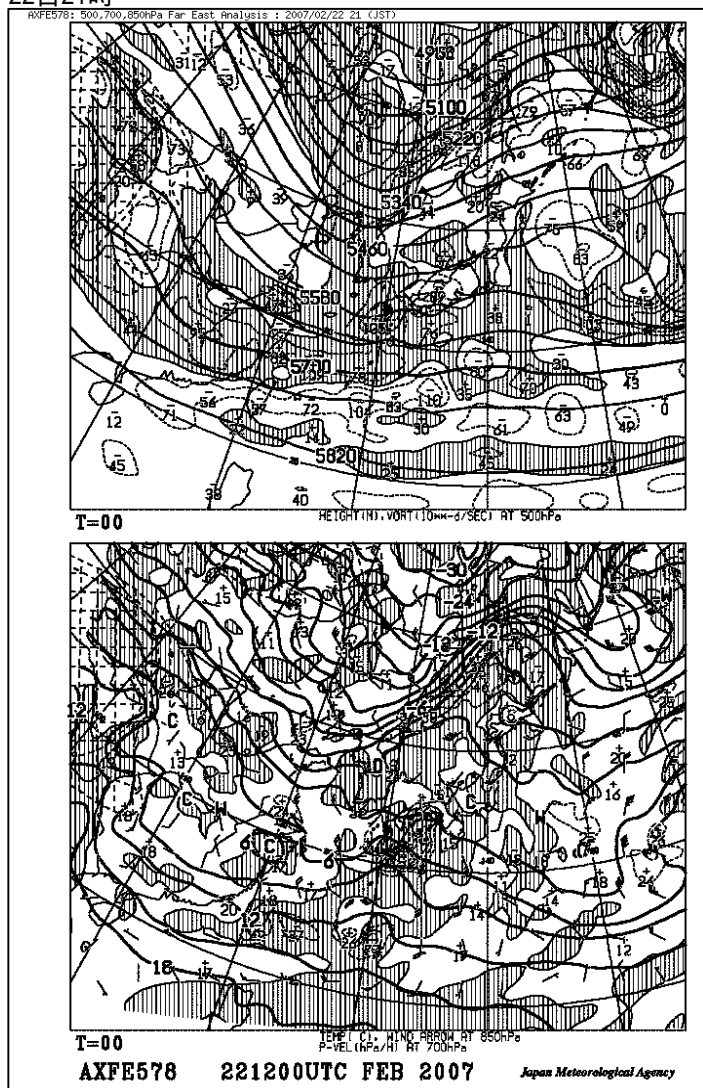
850hpa面高度・気温・湿数 22日21時



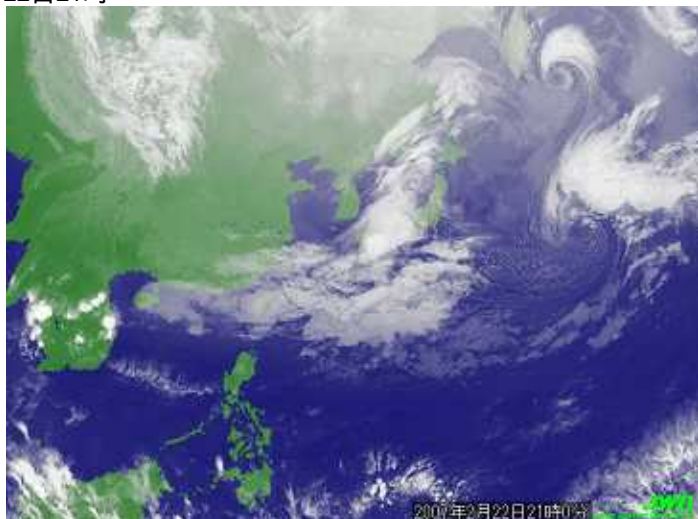
500hpa面の等高線を見ると、本州付近は北日本中心のリッジとなっていて負渦度量域の広がりが解析できます。700hpa面鉛直流解析図では、日本付近は上昇流域が広がっていますが、850hpa面で南よりの暖気移流となっていて気温上昇が寄与しているものと考えられます

以上から、気圧の谷が接近しつつあったにもかかわらずダクト発生条件はそりやすい条件にあったものと推定できます。(しかし、広範囲のダクト発生には至らない)

500hpa面高度と渦度・700hpa面鉛直流と850hpa面気温
22日21時



[参考] 赤外線雲画像
22日21時



[参考] エマグラム
22日21時 秋田

